

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：34428

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23792661

研究課題名(和文)救急患者の家族に対する援助の困難さを克服するための教育プログラムの構築

研究課題名(英文)Development of educational programs to overcome the difficulty of supporting families of emergency patients

研究代表者

森木 ゆう子(MORIKI, Yuuko)

摂南大学・看護学部・講師

研究者番号：70374163

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：救急場面にいる全員が同じ予測する流れに沿って事態が動くように作用する場合は、患者家族だけでなく看護師も満足する援助につながっていた。また、看護師が自己の家族援助の実践を低く評価していても、家族は看護師の関わりを好意的に評価していたことが多かった。そのため、看護師が適切に自己の実践を評価できるような支援が必要である。

そして、患者・家族の特性をふまえて個々の看護師の能力を効率よく発揮するためには、医療チームにおける中堅看護師の役割と責任が大きい。そのため、中堅看護師へのサポート体制の強化や教育が必要である。

研究成果の概要(英文)：Not only patients' families but also nurses felt satisfaction when emergency care and support were provided in the way that everyone on the scene had expected. In addition, patients' families often had high regard of their interactions with nurses even when the nurses rated their support activities as low. This suggests that it is necessary to develop a system that helps nurses to properly evaluate their nursing practice. To effectively demonstrate individual nursing skills that are consistent with the characteristics of individual patients and their families, the roles and responsibilities of nurses in medical teams need to be substantial. Therefore, it is important to enforce support systems and provide educational programs to mid-level nurses.

研究分野：看護学

キーワード：救急看護師 救急患者 家族援助

## 1. 研究開始当初の背景

救急医療機関に受診、あるいは、救急車で搬入される患者の家族は、突然に家族員の事故や急激な発症に直面するため、家族自身も危機的状況に陥りやすく、救急場面における家族援助は重要であると言われている。しかしその一方で、多くの看護師は、患者への治療処置の優先や受診(搬送)から入院(帰宅)までの時間の短さ等により、家族援助の困難さを感じている。

近年、看護師の救急患者の家族援助に関する研究への関心は高く、医学中央雑誌web(ver.4)で最近5年間における「救急看護」、「家族」のキーワードで検索された原著論文は約80件ある。しかし、これらの研究の大多数は限られた施設での援助実践内容を考察したものであり、家族援助の現象や全体像を記述した研究は十分になされていない。また、看護師が感じている家族援助の困難さと看護師の能力・患者家族の特性・状況などとの関連、看護師の患者家族援助の実践とそれによる患者家族の満足感に与える影響については明らかにされていない。そのため、看護師は家族援助の実践結果を正しく評価できず、実際よりも低い評価を下したり、家族援助の実践を躊躇したりするという状況に陥ってしまうと考える。そこで、未だ明らかにされていない家族援助の現象や全体像、特に看護師が感じている家族援助の困難さの構造を明らかにすることは、家族援助の実践結果の正しい評価につながると思う。さらに、看護師の家族援助の困難さを克服するための方法を明らかにすることができ、看護師だけでなく、患者家族も満足できる質の高い患者家族援助の実践に寄与すると考える。

看護師が感じている家族援助の困難さの構造を明らかにするには、AACN synergy model for patient care の構築過程が参考になると考える。AACN synergy model for patient care は、患者の特性と看護師の能力の相乗効果に着目し、看護実践の分析を通じて構築されてきたモデルで、アメリカにおいて看護の特定分野の認定試験作成や、外来看護ケアの実践モデルなどに活用されている。この構築過程を参考に、救急患者の家族に対する看護師の援助実践を分析し、患者家族の特性や看護師の能力、患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果を明らかにすれば、救急患者の家族に対する援助の現象や全体像、そして看護師が感じている家族援助の困難さの構造が明確化される。その結果、救急患者の家族に対する援助の困難さを克服するための教育プログラムを構築することできると考える。

## 2. 研究の目的

- (1) 救急患者の家族に対する看護師の援助実践を分析し、患者家族の特性やその特性に応じるための看護師の能力を明らか

かにする。

- (2) 家族援助の困難さに焦点をあて、患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果や家族援助実践のアウトカムを明らかにする。
- (3) 全国の二次および三次救急医療施設において、患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果や家族援助実践のアウトカムに関連する要因を明らかにする。
- (4) 上記(1)~(3)の結果から、看護師が感じている家族援助の困難さの構造を明らかにし、救急患者の家族に対する援助の困難さを克服するための教育プログラムを作成する。

## 3. 研究の方法

### (1) 海外文献の検討

#### 目的

救急患者の家族に対する看護師の援助実践を記述した海外文献を検討し、救急患者の家族に対する援助の現象や全体像を明らかにする。

#### データ収集方法

文献検索データベース Scopus を用いる。

### (2) 救急患者の家族に対する看護師の援助実践調査

#### 目的

患者家族の特性や看護師の能力、患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果を明らかにする。

#### データ収集方法

救急場面における看護師と患者家族それぞれの行動を参加観察し、看護師と患者家族に対して、患者家族援助に関するインタビューを行う。また、必要時、看護師の行動や患者家族の状態理解に役立てる情報を観察場面に登場する医療スタッフや診療記録から収集する。

#### 分析方法

患者・家族と看護師を含む全医療者の言動について参加観察したことをフィールドノートに記録する。また、参加観察中に看護師に対して実施するインフォーマル・インタビューと、参加観察後に家族と看護師に対して実施する半構成的インタビューを逐語録にする。フィールドノートと逐語録の内容を確認し、状況が変化した場合ごとに患者・家族・看護師・システムの要素を抽出する。そして、患者・家族・看護師・システムのそれぞれの関係を検討し、相互作用を評価する。

### (3) 全国の二次および三次救急医療施設に勤務する看護師を対象にしたアンケート調査

#### 目的

患者家族の特性と看護師の能力の相乗効

果や家族援助実践のアウトカムに関連する要因を明らかにする。

データ収集方法

対象：日本救急医学会が認定する救急科専門医指定施設 419 施設に勤務する看護師。(人数の概算：419 施設×1 施設およそ 30 名=12,570 名程度)

#### (4) 救急医療施設のシステムの現状調査

目的

患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果や家族援助実践のアウトカムに関連するシステム要因を明らかにする。

データ収集方法

救急医療施設の看護管理に携わる看護師と中堅以上の看護師を対象にインタビュー調査する。

分析方法

家族援助の実践に焦点をあて、患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果や家族援助実践のアウトカムに関連するシステム要因について分析する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 海外文献の検討結果

検索キーワードは「Critical care nursing」、「Family nursing」とし、研究方法を「Qualitative Research」に限定した。その結果、2009 年度 3 件、2008 年度 19 件、2007 年度 19 件、2006 年度 10 件、2005 年度 15 件、2004 年度 11 件であった。これらの文献の内容を検討したが、国内文献と同様、救急患者の家族に対する援助の現象や全体像を明らかにした研究はなかった。

##### (2) 救急患者の家族に対する看護師の援助実践調査結果

救急外来に勤務する看護師が担当する患者の家族にはじめて接する場面から患者の診察・処置が一段落つくまでの看護師と患者の家族の言動を観察した。その後、看護師に対して実践している家族援助の内容や家族援助に対する思いなどを中心に半構成的インタビューを行った。また、同意の得られた患者家族に対しても患者家族援助に関するインタビューを行った。その結果、その場にいる全員が予測する流れに沿って事態が動くように作用している場合は、家族と看護師がともに満足を得ていた。経過が見通せず、待機の状況が続くと、看護師は苛立ちを感じたり、患者・家族に苦痛を与えたと悔やんだりしていたが、看護師に気にかけてもらっていると家族が認識できていた場合は、家族は看護師の関わりを好意的に評価していた。しかし、家族が不満を感じていても、それを医療者に直接訴えることがほとんどなかったことも明らかになった。

##### (3) 全国の二次および三次救急医療施設に勤務する看護師を対象にしたアンケート調査

ト調査

上記(2)によって収集したデータを元に、患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果や家族援助実践のアウトカムに関するアンケート用紙の作成を試みた。次に、作成したアンケート用紙の質問設計が適切になされているのかを調べるためのプレテストを看護職者に行った。また、プレテストで得られた結果は、二次および三次救急医療施設間での特徴や違いがあるのか、援助実践内容は看護師経験年数以外の要因が有るのかどうか、援助実践を促進および阻害する要因があるのかどうか、援助実践能力を身につけるためにはどうしたら良いのか、という観点で分析ができるのかをクリティカルケア看護に精通する専門職者に相談しながら検討した。その結果、郵送法によるアンケート調査ではなく、救急外来に出向き聞き取り調査をする方が、様々な重症度・緊急度の患者が入り乱れる救急外来の現状を把握し、看護師が感じている家族援助の困難さの構造を解明できると判断するに至った。そのため、郵送法によるアンケート調査ではなく、救急外来に出向き聞き取り調査をすることに変更した。

##### (4) 救急医療施設のシステムの現状調査結果

患者家族の特性と看護師の能力の相乗効果や家族援助実践のアウトカムに関するインタビューガイドを作成した。対象の選定は、クリティカルケア看護に精通する専門職者に、研究対象になりうる看護師の紹介を依頼する、紹介を得た看護師に研究を依頼し、研究参加の同意を得たものを対象者とする、上記の対象者に別の研究対象になりうる看護師の紹介を依頼する、という手順で行った。対象に患者・家族と看護師を取り巻くシステムに関するインタビューを実施した。その結果、患者・家族の特性をふまえて個々の看護師の能力を効率よく発揮するためには、医療チームにおける中堅看護師の役割と責任が大きいことが明らかになった。

##### (5) 今後の課題

看護師が自己の家族援助の実践を低く評価していても、家族は看護師の関わりを好意的に評価していたことが多かった。そのため、看護師が適切に自己の実践を評価できるような支援が必要である。また、患者・家族の特性をふまえて個々の看護師の能力を効率よく発揮するためには、医療チームにおける中堅看護師の役割と責任が大きい。そのため、中堅看護師に対するサポート体制の強化や中堅看護師を対象とした教育プログラムの構築が必要である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

森木ゆう子, 明石恵子: 救急患者の家族に対する看護師の援助の意味, 日本救急看護学会雑誌, 査読有, 13 巻 2 号, 10 - 18, 2011.

〔学会発表〕(計2件)

森木ゆう子, 明石恵子: 救急外来における患者家族の特性・看護師の能力・システムの相互作用, 第10回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2014年5月24日, 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市).

MORIKI Yuuko, AKASHI Keiko: The Significance and Structure of Nursing Support for Families of Emergency Patients, International Hiroshima Conference on Caring and Peace, 2012年3月25日, 日本赤十字広島看護大学(広島県廿日市市).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森木 ゆう子 (MORIKI Yuuko)

摂南大学・看護学部・講師

研究者番号: 70374163